\*1 城北大学准教授　工学部土木工学科　工博　(正会員)　〒102-0083　東京都千代田区麹町1-7

\*2 東西建設(株)建設事業本部設計課　課長　修(工)　〒102-0083　東京都千代田区麹町1-7

\*3 城北大学大学院生　工学研究科土木工学専攻　(学生会員)　〒102-0083　東京都千代田区麹町1-7

コンクリート工学論文集原稿作成テンプレート

南谷　伝蔵\*1・乗鞍　英麿\*2・鞍乗　麿英\*3

概要(ゴシック体)：300字程度。概要は論文の内容と結論とを最も簡潔に伝え，しかも論文中に含まれるすべての新しい情報に言及するようにする。序論の一部ではないことに特に注意する。概要の表現に対する根本的な要点は，論文の主題についてかなりの程度の知識をもっている読者であれば，本文を見ないで概要だけを読んでも理解できるように書くことである。したがって，広く使われていない略記法，記号，術語を使ってはいけない。本文中の式，図，表，文献などは引用しない。どうしても式を引用する必要がある場合には，式そのものを書くこと。(標準文字)

キーワード(ゴシック体)：4～7語程度。ひび割れ，乾燥収縮，のようにカンマで区切り一行程度とする｡(標準文字)

1.　はじめに

　本文は，コンクリート工学論文原稿の執筆要領の概要を示したものである。詳細に関しては，執筆要領で確認すること。

　論文は10ページ以内とし，さらに4ページまでの超過が認められる。

　原稿は，A4サイズの白い用紙に横書き25字×49行×2段組，余白は上22mm，下22mm，左22mm，右22mmに指定して作成する。本文の文字サイズは9ポイントとし，フォントはMS明朝体（またはこれに類似したもの）を用いる。使用する句読点は「，」と「。」とし，いずれも全角を使用する。

2.　原稿の書式について

2.1　題目・著者名・概要・キーワード

（１）題目

　題目の文字サイズは20ポイントとし，上枠から3行空け，中央揃え（センタリング）で記載する。フォントは，MS明朝体（またはこれに類似したもの）とする。

（２）著者名と所属

　著者は原則として4名以内とする。著者名は題目から2行空けて，中央揃え（センタリング）で配置し，著者名の右肩に\*（アスタリスク）と数字を付す。著者名の文字サイズは9ポイント，フォントはMS明朝体とする（姓・名の間の空きは執筆要領8. (2)を参照）。

　脚注に示す著者の所属は，文字サイズを7ポイントとし，勤務先名，役職名，学部学科名(部課名)，学位，会員種別(非会員は記載なし)，住所を，職種に応じた本脚注の記載例の順序で示すこと。

　所属先と本文との間に区切り罫として，0.5ポイント罫線を引く。本文と区切り罫との間は，1行空きとする。

（３）概要およびキーワード

　著者名の次に300字程度の概要と4～7語程度のキーワードを必ずつける。なお，概要，キーワードの文字サイズは8ポイントとし，左右の枠線から3字空けた1段組とし，フォントはMS明朝体とする。

　著者名と概要との間は1行空きとし，キーワードは概要のすぐ下に続けて記載する。

2.2　本文

　本文はキーワードの後に2行空けて2段組で記載する。①序論(研究の背景と目的)，②本論(研究方法，結果，考察)，③結論 の順で，特に主語と述語の関係に注意して記述する。文字サイズは9ポイントとし，フォントはMS明朝体とする。

　章の見出しは，1行空けて書き出す。文字サイズは10ポイントとし，フォントはMSゴシック体とする。

　節の小見出しの文字サイズは9ポイントとし，フォントはMSゴシック体とする。

　項の文字サイズは9ポイントとし，フォントは本文と同一とし，（　）は全角文字を使用する。また，各章，節，項の見出しは，左端から1文字空けてから書き出す。

　箇条書きは，１）,２）,３）とし，左端から1文字空けてから書き出す。また，本文中に組み込む場合は，①･･････，②･･････，③･･････，とする。

表－1　表の作成例

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 粗骨材の最大寸法(mm) | スランプ(cm) | 水セメント比(%) | 空気量(%) | 細骨材率(%) | 単位量 (kg/m3) |
| 水*W* | セメント*C* | 細骨材*S* | 粗骨材*G* | 混和剤*A* |
| 20 | 8 | 47 | 4 | 35 | 150 | 319 | 650 | 1217 | 0.798 |
| 30 | 8 | 44 | 4 | 34 | 152 | 334 | 636 | 1214 | 0.834 |
| 40 | 8 | 44 | 4 | 34 | 153 | 348 | 621 | 1210 | 0.870 |

3.　数式・単位・図表について

3.1　数式

　極力簡潔にまとめ，式は3文字空けてから書き出す。式番号は(1)，(2)，(3)とし，式の最後に右寄せにして記す。また，文中での呼称は，式(1)，式(2)，式(3) とする。表記例を以下の式(1)に示す。

y =ax2 + bx + c (1)

3.2　記号

　できるだけ一般的なものを用い，最初に記した箇所で定義を明らかにする。また，判読上まぎらわしいものは，区別を明瞭にする。特に，下付または上付にすべきものは，はっきりと示す。

3.3　単位

　原則としてSI単位系に統一する。ただし，引用文献等において，SI単位を使用していない場合のみに限り，例外を認める。

3.4　図・表・写真について

　いずれも単独で意味が十分通じるようにまとめる他,以下の通りとする。

（１）キャプション，番号

　できるかぎり簡潔なキャプション（説明文）を付し，和文か英文に統一する。

　図・写真のキャプション・番号は，図・写真（位置）の下に，表のキャプション・番号は表の上に記載し，タイトルの文字サイズは8ポイント，和文のフォントはMSゴシック，英文のフォントはArial（またはこれに類似したもの）で記載する。なお，呼称はそれぞれ以下の[例]を参考とし，章ごとに番号を分けずに通し番号とする。

　[例]

　和文の場合→ 図－1，表－1，写真－1

　英文の場合→ Fig.1，Table 2，Photo 1

（２）配置

　本文と図・表・写真とが区別できるように，キャプション・番号を含む領域の上下を本文から1行空けて記

図－1　図の良い例と作図参考寸法

載し，本文の引用箇所に近いところに配置する。**ページまたは段の幅一杯に配置し、これらの左右に文章は記載しないこと。**

　また，図・表中の文字は7ポイント以上の文字サイズで記載する。

（３）その他

１）図・表・写真の挿入は最小限に留める。

２）他の印刷物から引用する場合は，原著者（著作権者）の了解を投稿者の責任において得ること。また，出典を参考文献に明記すること。

4.　参考文献について

4.1　表記方法

　参考文献は，投稿時に既発表のものに限る。また，参考文献の文字サイズは7ポイントとする。引用または参考とした文献名は，使用順に 1)，2)，3)，のように番号をふり，「結論」の後に参考文献としてまとめて列挙する。なお，参考文献の末尾は，左右の段をできるだけ揃えるようにすること。行間は13ポイントとする。

　文献番号は，本文中または引用した図・表・写真のキャプション（説明文）の最後に，上付数字で1), 2), 3)・・・のように明記する。

4.2　記載方法

（１）論文等の場合

　著者名（姓名）：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月の順とする。

（２）単行本の場合

　著（編）者名（姓名）：書名，発行所名，掲載ページ，発行年月の順とする。

（３）著者名

　和文文献の著者名は必ずフルネームを記す。連名者が多い場合には，筆頭著者以外を「ほか」と省略してもよい。

　欧文文献の著者名は，姓を先に記し，名はカンマの後にイニシャルで示す。連名者が多い場合には，筆頭著者以外を「et al.」として省略してもよい。

（４）発行年月

　和文文献の場合，西暦に統一して，1988.11，1991.2のように記す。欧文文献では，Nov.1988，Feb.1991のように記す。

[記載例]

参　考　文　献

1. David, T. M.: Simplified Diaphram Analysis, J. of Structural Div., ASCE, Vol.103, pp.2093-2103, Nov. 1977
2. Shanley, F.R.: Basic Structures, John Wiley & Sons Inc., pp.291-304, 1947
3. 春野秋雄，横田英治：無塩化・無アルカリ型防凍結性混和剤による初期凍害の防止効果，コンクリート工学論文集，Vol.7，No.1，pp.113-122，1996.1

5.　英文概要について

　英文概要は1段組とし，フォントはTimes New Roman(またはこれに類似するもの)を使用する。

　参考文献の1行下に0.5ポイントの罫線を引き，そこから1行あけて，題目・著者名・掲載巻号・英文概要・英文キーワードを記する。また，文字サイズは下記とする。

１）英文題目は，文字サイズを10ポイントとし，中央揃えとする。

２）著者名は，文字サイズを9ポイントとし，斜体文字で記すと共に，中央揃えとする。

３）掲載巻号は，文字サイズを8ポイントで，中央揃えとし，掲載が決定した後，即ち印刷用原稿提出時に記載する。

４）英文概要本文は文字サイズを9ポイントとし，左右空きマスなしの100 Words程度で記載する。

５）英文キーワードは文字サイズを9ポイントとし，英文概要の次の行から左右空きマスなしで記載する。

6.　その他

１）原稿受付日は，原稿が公益社団法人　日本コンクリート工学会 に届いた日付とする。

２）採択後，校正段階での著者の変更や大幅な書き足し，書き改めは認められないので，執筆要領と投稿要領の記載事項を再度確認のうえ提出のこと。

（原稿受理年月日：　　年　月　日）

Concrete Research and Technology （英文題目）

By Denzo Minamitani, Ema Norikura and Mae Kuranori（英文著者名）

Concrete Research and Technology, Vol.○, 20XX　（掲載巻，掲載年は印刷用原稿提出時に記載する。）

Synopsis: ・・・・・・・・・・・・・・（英文概要）

Keywords: Crack, Drying shrinkage, ・・・（英文キーワード）

：：：テンプレート改訂履歴：：：

＊2004年12月＊

・英文フォントをTimes New Romanへ改訂しました。

・キャプションフォントをMSゴシック（和文）・Arial（英文）へ改訂しました。

＊2011年8月＊

・本学会名を変更しました。

・著者所属欄（学位）の記載方法を改訂しました。

＊2011年9月＊

・図の挿入位置を変更しました。

・著者所属先の記載順序を修正しました。

＊2013年11月＊

・英文表題下の巻・掲載年の表記を変更しました。

＊2024年8月＊

・著者所属欄の記載例を更新しました。